

1 論点

(1) 費用対効果について

令和4年度に実施した費用対効果等の試算結果から、一定程度の費用対効果が見込まれるが、県立大学生1人を県内定着させる県負担額は1千万円超となる。今回の試算結果等をどう評価するか。

(●は論点間で再掲あり)

	委員意見
1	●県内の高等教育に行っても35%しか就職していないし、県外の高等教育に行っても23%は戻ってきている。産業が元気でないと結局県外に出て行ってしまし、逆に産業に魅力があれば県外からも来てくれるので、県内での人材育成にこだわりすぎない方がいい。
2	県立大学設置の価値を何に見出すか。地域によっては、どこに出るにも不便で、その地域に生まれただけで進学コストが他より非常に高い子供たちがいる。地域の発展を支えることも大事だが、選択肢が地方に行くほどないので、そこを県立大学が補うことも大事。
3	●県外から学生に来てもらうには、尖った大学を作るのも一つ。秋田の国際教養大はいい大学だが、地元議会では全然県に貢献していないと言われ続けており、難しい面もある。何を指したいのか、本当に県直営で大学を作る必要があるのかも含めて、県の高等教育をどうするのかを議論した方がいいのではないか。
4	●今回の費用対効果の算出では、300人、600人の入学定員が設定されているが、近年の新設大学の入学定員の平均は130人程度であり、300人の設定は現実的ではないと思う。また、県内の私立大学への影響も大きいのではないか。
5	●企業アンケートでは工学部が上位だが、工学部自体は機械工学、電子工学等と細分化され、コースを作る程コストもかかる。漠然と工学部ということではなく、どういう人材が必要かという議論が必要ではないか。
6	●県立大学の設置に限らず県内への定着を図るためには、県内の既存大学と県内企業との連携を強化することが必要であると考え。これまで、産学連携は、各分野、部門で進められてきたが、人材育成、キャリア支援、採用、インターンシップ等にかかわる産学連携はあまり進んでいないのではないかと思う。県内の大学で学ぶ学生が、県内企業でキャリア支援を受け、卒業後優先的に採用されるような仕組みを構築していくことが必要ではないか。

7	<p>県立大学生1人を県内定着させるための県負担額は1千万超とあるが、前回指摘があったように、300人600人の試算は近年の大学設置の状況を踏まえると現実的ではない。新設大学の平均規模130人を前提にすると、1人当たりの県負担額は大きくなるのではないかと。費用対効果の試算は現実的な実態に則した試算が必要と考える。</p> <p>費用は、イニシャルコストとランニングコスト、固定費と変動費に分類したうえで、規模・開設予定学部を示さないと比較ができない。</p> <p>一般的には、18歳・22歳で県外に転居することが多いが、県立大学設置で転居時期がシフトしただけにならないか。県内大学→県内就職比率（歩留まり）の算出の根拠は、・・・効果の根拠となる就職人数が不明確でこの数字により経済効果も大きくぶれる可能性がある。</p> <p>以上を踏まえたうえで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重大学・県立看護大学等の学部新設助成、既存私立大学（私立大学が望まないと無理だが）の県立化助成などの費用を算出し、大学新設と比較 ・三重県出身または三重県大学在籍者の三重県本社企業で就職した場合の奨学金の返還免除・減額と大学新設との比較 ・働く場所の誘致（例：クリスタルバレー・メディカルバレーなど）に伴う補助金新設と大学新設との比較 ・子育て世代の生活支援（年収制限の無い学費・給食費の無償化）実施による子育て世代の増加との大学新設と比較 <p>上記のような他の方策と大学新設費用を比較検討する必要があるのではないかと。</p>
8	<p>県立大学生1人を県内定着させる県負担額「1千万円超」について、費用は学生の教育以外にも使われ、大学設置の費用や運営費による効果やその評価は見方によってさまざまであることから、費用をベースとした他の方策との比較検討は極めて難しいと思う。</p>
9	<p>●県内定着という観点からすると、県立大学の設置よりも、県内での就業先の確保・就業先の拡大とともに、採用側と学生のマッチングの効果的・効率的な支援、就業後の生活環境の充実・暮らしの向上に資する方策の方が必要ではないかと。</p>
10	<p>●三重県と県外大学との就職支援に関する協定について、これまでにその効果が出ていれば、さらなる強化・充実の方策を、効果が出ていなければ、その改善方策や見直し方策を検討すべきではないかと。（例えば、各協定締結校との具体的な内容はわからないが、県内企業でインターンシップに参加する学生が、インターンシップ参加中も自大学の授業をオンラインで受講できる施設・設備を用意し、数カ月のインターンシップを実施できるようにするなど。）</p>
11	<p>県外大学の学外教育（フィールドワーク、インターンシップ、体験学習など）や研究活動の場として、三重県内にその拠点となる施設・設備を用意し、県外大学の学生や教員が三重県内で一定期間を過ごす環境を整備したり、経済的な支援を行ってはどうか。</p>
12	<p>県内の高校生で、県内大学に通うにも下宿せざるを得ず、下宿するなら県外も同じという状況があれば、県内高校生が県内大学に通学するための下宿費用等の補助や下宿先の無償提供などを行い、県内大学に通学した方が経済的に有利となる方策も考えられる。</p>
13	<p>県立大学を設置することも一案ではあるとは考えられるが、何も無いところから作ることもあって、多額の経費がかかることは試算からも明らかである。また、他の公立大学の例からも、県内定着に関して劇的な変化を与えるようなものとはなっていない。</p>

14	県内私立大学への支援や県内就職に伴い、奨学金の返還を支援するなどの取組みのほうがか費用もかからず、一定の効果は期待できるものと考えます。また、すでに実施している自治体もあるかもしれないが、名古屋や大阪に自宅から通学できる学生が一定数いることから、通学定期の助成を充実させ、県内就職の場合は優遇するような措置も検討してみてはどうか。
15	他県で県民を対象に授業料無償化の動きもあり、学生の獲得にはさらなる財政負担が必要になるかもしれない。

(2) 人口減少下の大学経営について

出生数の減少が早まり、令和4年には80万人を切り、想定以上に将来の18歳人口が減少することが見込まれる。仮に県立大学を開設するとしても早くて令和10年度となる。18歳人口の減少が加速する中で、若者の県内定着のために県立大学を新設する意義があると考えられるか。

(●は論点間で再掲あり)

委員意見	
1	今回どの学部をとという議論が先行しているが、どんな人材をつくっていくか、どのような教育プログラムをつくるかが大事ではないか。
2	●企業のニーズも大切だが、戦略的に考えて、今ある企業にあわせて学部を考えるのではなく、今後の三重県の経済発展を視野に入れて、どんな産業が県として大事なのか、そのためにどの学部が必要なのかセットで考えないといけない。
3	●県内に留めるため県内高校生のニーズに合わせた大学を作るより、全国でこの大学でないと学べないから三重県に来ようと思うような大学を目指すべきだと思う。ユニークさや奇抜さがなければ今後生き残れないのではないかと。ただ、トレンドがついてこない可能性もあるため方法は考える必要がある。
4	地理的なバランスが非常に大事。仮に北中勢地域に県立大学ができて、南部の学生は地理的に通うことができず、下宿するなら名古屋や東京へ行ってしまう可能性がある。学びの格差をなくしていくのも大きなポイントだと考える。
5	●今、観光サービス関連に就く若者が随分減っている。三重県の場合、観光サービスに従事する、いわゆる専門職を養成する大学、学部が無さそうなので、観光関連に県内で育成した人材が就職するような学部や専攻があってもいいと思う。
6	●大学進学者収容力という「量」の議論で進んでいるが、「質」の議論も並行してする必要がある。既存高等教育機関に偏差値の空白域があり、その空白を県立大学が埋められるのであれば、学生の進路の選択肢は拡大し、設置の意味はある。
7	●学部を検討する上では、学生の就職先まで含めて、地域で何が 필요한のか考えないといけない。
8	日本でミネルバ大学のような特定のキャンパスを持たず、授業をすべてオンラインで行うことは難しいかもしれないが、試行する大学は増えていると思う。大学を作るのか、あるいは全国の大学から三重県を学びの場として使ってもらおうとか、色々な発想がある。新しく箱モノを作るだけが全てではないように思う。

9	養成する人材像が固まっていなくて国から大学設置は認可されない。人材像がはっきりしないとプログラムが作れない。どういう高等教育機関を作るかより、どんな人材を三重県として育てる必要があるか議論することが重要だと思う。
10	●今回の費用対効果の算出では、300人、600人の入学定員が設定されているが、近年の新設大学の入学定員の平均は130人程度であり、300人の設定は現実的ではないと思う。また、県内の私立大学への影響も大きいのではないかと。
11	通信制大学は定員割れが多いが、それでも新規参入がある。通信制大学の内容によっては、進学機会、自宅から物理的に通えない学生にとって良いサービスになるかもしれない。また、学費が通常の国公立大学より安い設定のため、既存の大学には影響が大きい。内容が充実した通信制大学を出て、社会で活躍する卒業生が増えてくると、学生が通信制大学に流れる可能性も十分にあるため、こうしたことも含めて考える必要がある。
12	コロナ禍でオンライン授業が普及したが、一つのキャンパスに留まらず、在学中、キャンパスから離れて、何か地域の活動に入りながら、授業はオンラインで受けられる。そうした一つの場所に留まらない学び方は今後、増えてくるだろうと思う。従来の箱モノを作って、そこで学ぶスタイルは変わってくるのではないかと。
13	今はリスクリングが地域でも重要という議論がある。人材像・育成は10年・20年先を見据えて考えないといけない。大学を作れば上手くいく訳ではなく、公立大学の経営も厳しくなっており、統合や縮小も出てくるのではないかと。
14	秋田の国際教養大学の成功例や、一方で広島のお啓大学は定員割れが起きている事例もある。若者について、三重県にどのような人材が必要で、どのように人材を育てていくのか、それを行うのは県の直営が良いのかなど、お金のない時代に、どこまで県がやるのかは少し気になる。
15	通信をメインにした大学やzoomの方が好きという学生もおり、ハードのキャンパスよりも、教育のプログラム、或いは人材育成のプログラムがしっかりしているところが大事と感じる。
16	人材育成の観点からすれば大学に留まらず、専門学校も含めて検討する必要があるかもしれない。
17	県立大学を新設する意義はあると考える。 ただ、学部や専攻、定員などを先に決めて議論するのではなく、まず、県としてどのような人材をつくっていく（輩出する）のか、どのような人材が必要となるのかを議論し、人材育成のプロセスを明確化したうえで、教育プログラムを策定していく必要があると考える。このため、学部や専攻については、「こうした教育プログラムを実践するためには…」 「結果的に〇〇学部がふさわしい」のようなかたちになるとよいのではないかと。 たとえば、県内企業や事業所、NPOなどでの中長期型インターンシップを必修化する。さらには、県内のいくつかの地域で地域課題の解決をめざす「課題解決型フィールドワーク」を実践したり、県内企業の事業やビジネスと一緒に取り組む「課題解決型プログラム」を行ったりと、県内全域が大学のキャンパスとなるような産官学民連携型の授業プログラムをつくっていくことなども必要になってくるように思う。 また、県として、（将来）どのような産業を育成、強化したいのか、その戦略をはっきりさせることも必要ではないかと。
18	北勢地域における最先端の工学系及び南勢地域における就学機会の提供や偏差値ブランク域の補完という意味で県立大学設置の意義はある。
19	三重県として、箱モノをつくって維持するだけの税収は見込めるのか。将来の収支予算を確認したい。そのうえで、若者定着化に向けてねん出できる費用額から優先順位をつけるべき。

20	不確定要素が多い将来の収入見込みのなか、固定費を増やすことは基本的に否定的。
21	●規模だけで考えれば、今後、現状の県内大学の入学定員を満たすことはますます難しい状況になるので、県内の定員規模の拡大につながる県立大学の設置は、県内大学の定員未充足を悪化させることになると考えられる。県内大学の経営を圧迫し、規模縮小や学部学科の募集停止、あるいは大学の閉鎖を招く可能性があると思う。県内大学の経営を考えると、県立大学の設置は避けた方が良くもしいれない。
22	●ただし、県立大学を設置しなくても、今後、県内大学が定員を充足するのは難しくなり、規模の縮小や学部学科の改組・募集停止などの対応は避けられないかもしれない。県内大学が学部学科の募集停止や大学閉鎖に踏み切った場合、県内高校生の県外流出を加速する可能性があることから、このような事態を想定すると、県立大学の新設は意義があると言えると思う。
23	県内大学の存続の可能性との兼ね合いとなるが、地方都市における高等教育機会の確保には公立大学の役割はより重要になると考えられるので、県立大学の新設は、中長期的には意義があったと評価される可能性はあると思う。その意味で、新設するとすれば、県内で養成すべき人材を絞り込んだうえで、まずは比較的小規模な大学の設置が現実的ではないか。
24	●定員規模にもよるが、比較的小規模で人材養成が必要な分野であれば、学生確保は可能だと思われる。後発であるからこそ、既設大学ではすぐに設置に踏み切れない分野を設置したり、私立大学では経営維持が難しい小規模の定員設定で大学を運営することは、県の経費負担を伴うが県立大学の強みかもしれない。
25	そもそも開設時期について、早くても令和10年度というのは、すでに三重県としてこのような大学を作るという明確なビジョンが決まっているのと考えられる。実際にはもう少し時間がかかることが想定される。人口減少が加速する中で、18歳人口の「奪い合い」が国公私立、そして大都市と地方で一層激しくなることを前提とすれば、大学の開設以外の選択肢を模索したほうが若者の県内定着につながると思われる。

(3) 既存の県内大学への支援について

県内大学で学部再編・拡充や新しい学部の設置等に向けた動きがある。こうした動きがある中で、定員増等に向けて県立大学の新設と既設の県内大学への支援との2つの政策の選択肢があるが、どう考えるか。

(●は論点間で再掲あり)

委員意見	
1	●県内に留めるため県内高校生のニーズに合わせた大学を作るより、全国でこの大学でないと学べないから三重県に来ようと思うような大学を目指すべきだと思う。ユニークさや奇抜さがなければ今後生き残れないのではないかと。ただ、トレンドがついてこない可能性もあるため方法は考える必要がある。
2	●県外から学生に来てもらうには、尖った大学を作るのも一つ。秋田の国際教養大はいい大学だが、地元議会では全然県に貢献していないと言われ続けており、難しい面もある。何を指したいのか、本当に県直営で大学を作る必要があるのかも含めて、県の高等教育をどうするのかを議論した方がいいのではないかと。

3	<p>学校基本調査によると、三重県の大学進学率は10年以上横ばいである。全国平均は少しずつ伸びている。全国的には若干伸びている中で三重県は10年以上ほぼ横ばいということは、三重県の構造が変わっていない、高校卒業生で大学に行く割合が変わらない状態である。県内に高卒者を受け入れる就職先が多いのかもしれないが、人材の高度化という意味ではそういった層からも進学者が出てくる必要もある。高等教育機関の在り方を考えてもいいのではないか。</p>
4	<p>●既存大学でも従来の語学や体育のように、教養教育の位置づけでデータサイエンスの授業を入れようとしている。データサイエンスはどここの大学でも最低限学ぶことになるので、県内でもそういう動きは強まると思う。</p>
5	<p>三重県として高等教育の在り方をどう考えていくのか詰めていく必要があると思う。</p>
6	<p>県立大学の新設について検討することを優先すべきと考える。 既存の大学の定員増となると、原則として、学部そのものの新設ではなく既存の学部の定員を増やすことになると思われるが、それでは、学生の県外流出をくい止めることは難しい。県外企業に就職する卒業生の「割合」もおそらく大きな変化はみられないだろう。 むしろ、企業と新県立大学とがタッグを組み、三重県というフィールド、資源を最大限に活用して、新たな事業、ビジネスを生み出すような教育プログラムを策定し、人材育成、産業育成のイノベーションを巻き起こすくらいの動きがないと、他県からの人材獲得はおろか、人材の県内定着は難しいと考えられる。 また、個人的には、三重大学に次ぐ偏差値的にナンバー2の大学をつくるのではなく、他大学と比較をすることが難しいと思えるようなユニークな教育プログラムを持つ大学を設置することが望ましいと考える。</p>
7	<p>新設大学設立までのイニシャルコストや長期間にわたって増加する固定費や設置にかかわる人的負担と大学設置による効果を比較衡量すると、既存大学での学部編成・拡充・新設への支援が現実的ではないか。</p>
8	<p>県内大学の改組等の支援を行うとともに、県内高校生の大学進学を支援する方策の方が、県立大学新設よりも優先すべきと考える。 県内大学、特に私立大学では設置していない分野や今後も設置が難しい分野で、かつ人材養成が必要な分野があれば、県立大学を設置し県立大学が担うことは考えられると思う。 いずれにしても、県内定着のためには、県内高校生の県内大学進学を支援する経済的措置や県内大学卒業後も県内に残ることを促す方策が必要になると思う。</p>
9	<p>●規模だけで考えれば、今後、現状の県内大学の入学定員を満たすことはますます難しい状況になるので、県内の定員規模の拡大につながる県立大学の設置は、県内大学の定員未充足を悪化させることになると考えられる。県内大学の経営を圧迫し、規模縮小や学部学科の募集停止、あるいは大学の閉鎖を招く可能性があると思う。県内大学の経営を考えると、県立大学の設置は避けた方が良いかもしれない。</p>
10	<p>●ただし、県立大学を設置しなくても、今後、県内大学が定員を充足するのは難しくなり、規模の縮小や学部学科の改組・募集停止などの対応は避けられないかもしれない。県内大学が学部学科の募集停止や大学閉鎖に踏み切った場合、県内高校生の県外流出を加速する可能性があることから、このような事態を想定すると、県立大学の新設は意義があると言えると思う。</p>

11	<p>新たな大学を作るためにはキャンパスといったハード整備だけでなく、教員の確保やカリキュラムの作成などソフト面にも労力を使う必要がある。近年公立大学となったところの大部分は、短大を母体としたものや私立大学の公立化、そして使われなくなった私立大学のキャンパスの再利用といったものであり、純粹に新設されたものは小規模なところが多い（専門職大学など）。三重県としてこのような大学を作るという明確なビジョンが現時点でない中では、既存の大学への支援を優先すべきであるが、この場合、単に財政的支援だけでなく、どのような人材を育成していくかについてなど十分すり合わせることを望ましいと考える。それとともに三重県として、高等教育のあり方をどのように考えていくのか、計画や大綱などの策定も含めて検討すべきと考える。</p>
----	---

(4) 国の大学施策の動向について

国では、デジタル・グリーン等の分野への学部再編や高度情報専門人材の確保に向けた支援等を打ち出している。東京 23 区の大学は、地方大学・産業創生法により、平成 30 年からの 10 年間、原則定員抑制が行われているが、例外措置としてデジタル分野に限り、臨時的な学部新設や既存学部の定員増が認められた。既存の大学がこうした国の大学施策の方向性を捉えて学部再編や拡充等を進めている中、新設に時間を要する後発の県立大学は、十分な学生確保等が見込めると考えられるか。

(●は論点間で再掲あり)

委員意見	
1	<p>デジタルのトレンドはいつまで続くか分からない。今は情報通信産業への就職を求めて東京一極集中の状況がしばらく続くとは思いますが、5年くらいでトレンドは変わっていく。三重県としては、デジタルより産業・人材にこだわった学部づくりに力を入れた方がいい。</p>
2	<p>現在、デジタル関連学部の新設がトレンドとなっているが、デジタル、情報通信にかかわる人材育成は、学部を新設することによってなしうるのではなく、学部や学科、専攻にかかわらず、全学横断的に学べるようなプログラムを設置することでなしうるべきであると考え。このため、これから、デジタル、情報通信関連学部の設置を検討しはじめるとするのは、あきらかに「乗り遅れている感」がある。</p>
3	<p>県として、デジタル、情報通信に特化した大学や学部を新設することについては、慎重であるべきであろうと考える。</p>
4	<p>学部新設に加えて、魅力的な教員確保まで手が回るのか、国の施策だが掛け声倒れに終わる懸念がある。後発の県立大学では益々魅力的な教員の確保は難しいと考えられる。</p>
5	<p>●定員規模にもよるが、比較的小規模で人材養成が必要な分野であれば、学生確保は可能だと思われる。後発であるからこそ、既設大学ではすぐに設置に踏み切れない分野を設置したり、私立大学では経営維持が難しい小規模の定員設定で大学を運営することは、県の経費負担を伴うが県立大学の強みかもしれない。</p>

6	<p>試算にもあるようにデジタル系（情報系）の人材は地元定着率が低く、大都市圏に流れる傾向が強い。また、全国各地で学部の新設の動きがあり、教員の確保も難しくなっていくことが考えられる。さらに、単にデジタル技術が使いこなせるだけで社会のニーズに合致する人材を提供できるのか、疑問視する向きもある。このようなことからデジタル分野の県立大学設置は困難であると考え。一方、グリーン分野で学部等を設置する大学に対して、志摩・南勢地方は教育・研究のフィールドを提供できる可能性が高く、そのような大学と連携していくことが、結果として若者の県内定着に一定程度寄与できると考える。</p>
---	---

(5) 企業のニーズ等への対応について

令和3年度及び令和4年度に実施した事業者アンケートの調査結果からは、工学部、商学・経営学・経済学部等へのニーズが高かった。今後の地域経済の動向や産業構造の変化を見据えたニーズに十分応える大学を設置して、県内定着を促進することは可能だと考えられるか。

(●は論点間で再掲あり)

委員意見	
1	<p>●企業のニーズも大切だが、戦略的に考えて、今ある企業にあわせて学部を考えるのではなく、今後の三重県の経済発展を視野に入れて、どんな産業が県として大事なのか、そのためにどの学部が必要なのかセットで考えないといけない。</p>
2	<p>どのような人材を求めるかという問題は難しく、半導体事業も10年後は分からない。データ関係の学部を作るのは、乗り遅れている感があると思う。今の企業が求める人材と、10年後20年後、県にとって必要な人材は違うかもしれない。この問題、企業としては難しいし、大学を作るのも同じではないか。</p>
3	<p>●今、観光サービス関連に就く若者が随分減っている。三重県の場合、観光サービスに従事する、いわゆる専門職を養成する大学、学部が無さそうなので、観光関連に県内で育成した人材が就職するような学部や専攻があってもいいと思う。</p>
4	<p>四日市や桑名からは、津に来るより名古屋に行った方が近い。名古屋には多くの大学があり選択肢も多いことを考えると南勢地域で大学を作ると、北勢地域で作るとでは大学の性格が全く違う。例えば、北勢に設置するのであれば最先端の工学系（素材・水素・電子デバイス・サイバーセキュリティなど）が望まれるし、南勢に設置するのであれば、若者の進学のための提供が重要なファクターとなる。南勢の学生の進路として、高専まで含めると工学系・医療系に比して、文系に進もうと希望した場合の選択肢はかなり少ないと思う。</p>
5	<p>●大学進学者収容力という「量」の議論で進んでいるが、「質」の議論も並行してする必要がある。既存高等教育機関に偏差値のブランク域があり、そのブランクを県立大学が埋められるのであれば、学生の進路の選択肢は拡大し、設置の意味はある。</p>
6	<p>●学部を検討する上では、学生の就職先まで含めて、地域で何が必要なのか考えないといけない。</p>
7	<p>企業は必ずしも三重県の大学に居た人が欲しい訳ではない。むしろ、いろんな所を経験してきて、人生経験や視野の広い人を求めている。県内で大学を作ったから県内就職が増えるというのは、イコールではない。</p>

8	最近は大大学でデジタルリテラシーを学ぶことが増えているので、県立大学で卒業生を出す頃にはそれは当たり前になっていて、むしろセンシングやデータベースを上手く活用してマーケティングをどうするか、顧客動向を理解する等が必要になってくる、そういう文理融合型教育を受けた人材であれば企業は欲しいと思う。
9	一般的に日本の総生産は全体比率が製造業 20%ぐらいだが、三重県は約 40%ある。そのため、製造業分野の研究開発は別として、オペレーションという意味では、高専や工業高校の優秀な学生が就職してくれれば有難い。それを踏まえると県内高校生の進路は大学ありきではないことも考える必要があると思う。
10	大学の設置学部を考えるにあたって、コンビナートなどの工場群や県土の約 70%が森林であるなど、県が保有する地域資源について考えないといけない。現在産業界では、二酸化炭素など温室効果ガスの削減対策について炭素税も含めて非常に考えている。必ずしも県立大学である必要はないが、その研究ができればこの地域を活性化できるので研究機関は欲しいし、人材としてのニーズはある。
11	●県内の高等教育に行っても 35%しか就職していないし、県外の高等教育に行っても 23%は戻ってきている。産業が元気でないと結局県外に出て行ってしまし、逆に産業に魅力があれば県外からも来てくれるので、県内での人材育成にこだわりすぎない方がいい。
12	●企業アンケートでは工学部が上位だが、工学部自体は機械工学、電子工学等と細分化され、コースを作る程コストもかかる。漠然と工学部ということではなく、どういう人材が必要かという議論が必要ではないか。
13	●既存大学でも従来の語学や体育のように、教養教育の位置づけでデータサイエンスの授業を入れようとしている。データサイエンスはどこの大学でも最低限学ぶことになるので、県内でもそういう動きは強まると思う。
14	企業と大学の連携は、大学に期待される役割の一つであるが、企業と大学の間で動ける人が少ないと思う。大学のことも分かり、企業のことも分かる、つなげる人がいると現状の大学、現状の企業でも、違う活動が生まれることも県の人材育成の一つとして考えてもよいと思う。
15	三重県は製造業が盛んなので必然的に工学部が欲しいとなる。しかし、優秀な人材は県外に出ていくことが多く、仮に、県立大学で工学部を設置しても、県内企業への定着は難しいように思う。ただ、県内企業との連携を強化し、教育プログラムをオリジナリティのあるものにすれば、歩留まりは少し増えるかもしれない。
16	県産業への波及効果を考えれば、工学部や商学部など、特定の分野だけを学べる学部よりも、学部名称は「文理融合型」で比較的「幅が広めの」学部名称とし、学科や専攻で、細分化するというかたちのほうがよいのではないかと。また、とくに県南部では、食や観光にかかわる産業に強みがあるが、それを持続可能なビジネスや事業に結びつけられるようなスキルを持った人材が不足している。県内には、食や観光、サービスにかかわる専門職、専門的知見を有する人材を養成する大学、学部があまり無さそうなので、既存の専門学校とは教育プログラムや養成する人材のイメージなどの点で差別化を図ったうえで、検討してみるのもよいのではないかと。
17	●県立大学の設置に限らず県内への定着を図るためには、県内の既存大学と県内企業との連携を強化することが必要であると考えます。これまで、産学連携は、各分野、部門で進められてきたが、人材育成、キャリア支援、採用、インターンシップ等にかかわる産学連携はあまり進んでいないのではないかと。県内の大学で学ぶ学生が、県内企業でキャリア支援を受け、卒業後優先的に採用されるような仕組みを構築していくことが必要ではないかと。

18	大学は北勢地区設置と南勢地区設置で性格は異なる。県内定着を増加させるには、企業の育成・誘致（本社・研究機関・マザー工場・システムエンジニア・クリエイター・ワーケーションに馴染む職種等）とワンセットで考えないといけない。
19	企業としては、県内の学生にこだわっているわけではなく、それより県外を経験した視野の広い人が欲しい。それを実現するには、県立大学の設置も悪くはないけれども、むしろ県外へ出た人が、戻ってこれるような仕組みづくりに努力することが大事である。
20	県外の大学や学生への県内企業紹介に注力したり、県内外からニーズに沿った人材確保のマッチング支援など県内の情報をアピールして県内企業に就職してもらう方が県内定着には現実的ではないか。
21	設置するとすれば定員は比較的小規模になると思うが、地域に必要な人材の養成を行い、地域に十分な就職先があれば、県内定着を促進する可能性はあると思う。場合によっては、学部ではなく大学院レベルの人材養成の可能性も考えられる。 ただし、設置すればそうなるということではなく、教育課程、教育方法、教員組織、職員組織など、大学の内容が極めて重要で、ニーズに応える教育内容の構築や研究活動の推進、学外との連携を促進できる体制の整備（特に職員の配置）などが求められると思う。
22	●県内定着という観点からすると、県立大学の設置よりも、県内での就業先の確保・就業先の拡大とともに、採用側と学生のマッチングの効果的・効率的な支援、就業後の生活環境の充実・暮らしの向上に資する方策の方が必要ではないか。
23	●三重県と県外大学との就職支援に関する協定について、これまでにその効果が出ていれば、さらなる強化・充実の方策を、効果が出ていなければ、その改善方策や見直し方策を検討すべきではないか。（例えば、各協定締結校との具体的な内容はわからないが、県内企業でインターンシップに参加する学生が、インターンシップ参加中も自大学の授業をオンラインで受講できる施設・設備を用意し、数カ月のインターンシップを実施できるようにするなど。）
24	企業のニーズが工学部、経済学部等で高かったからといって、三重県内にすべてなくても、名古屋圏や近畿圏の大学を卒業して三重県内の企業に就職すれば問題はないと考える。